

# 『千軒舎』

松山地区まちづくりセンター

旧内藤家住宅

松山地区まちづくりセンター「千軒舎」は、赤砂利交差点から北へ入ってすぐのところにあります。台格子・虫籠窓・煙出しを備えた伝統的な町家で、一般の住宅と間違えられることもあります。以前、薬屋・歯科医院として使われていた建物を改修して、平成15年10月にオープンした施設です。

施設の名前は、かつて松山町が「宇陀千軒」と呼ばれるほどの賑わいを見せていたことから、現代の「宇陀千軒」を実現したいとの気持ちを込めて「千軒舎」と名づけられました。

この建物は、地域のまちづくりを支援する拠点、歴史的町並み散策の情報発信、伝建地区の改修モデルハウスという三つの役割を持っています。

現在は、まちづくり団体の会議の場、見学者への便宜施設などに利用されています。

## 周辺の観光

- 鳥見山公園**・・・室生赤目青山国定公園の一角にあるツツジの名所。  
道の駅「宇陀湯太寺」から約10km  
〒633-0207 宇陀市榛原萩原鳥見山公園
- 宇太水分神社**・・・創立は崇神天皇の時代で、大和の東西南北に祀られた水分のうち東に当たるのが中社とされる。  
道の駅「宇陀湯太寺」から約4km  
〒633-2226 奈良県宇陀市菟田野古市場 245
- 佛隆寺**・・・空海の高弟の賢恵が創建したと伝わる古刹。県下最古の門前の桜がすばらしい。  
道の駅「宇陀湯太寺」から約12km
- 室生山上公園**・・・公共事業とアートの融合を考え、自然環境と調和した公園。  
道の駅「宇陀湯太寺」から約22km
- 室生寺**・・・真言宗室生寺派大本山の寺院。女人禁制だった高野山に対し、女性の参詣が許されていたことから「女人高野」の別名がある。  
道の駅「宇陀湯太寺」から約20km  
〒633-0421 奈良県宇陀市室生 78



宇陀・松山地区は奈良県東部に位置し、大阪・京都からは近鉄を利用します。榛原駅からバスで15分の「大宇陀」停留所は道の駅にもなっており、休憩やお買い物に便利です。

- 【宇陀・松山地区までのアクセス】**
- 電車・バス**
- 近鉄大阪線榛原駅下車
  - 奈良交通「大宇陀」行き約15分
- 自動車**
- 名阪国道針インターから約30分  
国道369号を宇陀市方面 → 国道370号 → 国道166号
  - 南阪奈道美原北インターから約40分  
大和高田市経由  
国道24号を榛原方面 → 国道165号 → 国道166号

**【お問い合わせ】**

- 松山地区まちづくりセンター TEL:0745-87-2274
- 宇陀市・宇陀市観光連盟 TEL:0745-82-2457

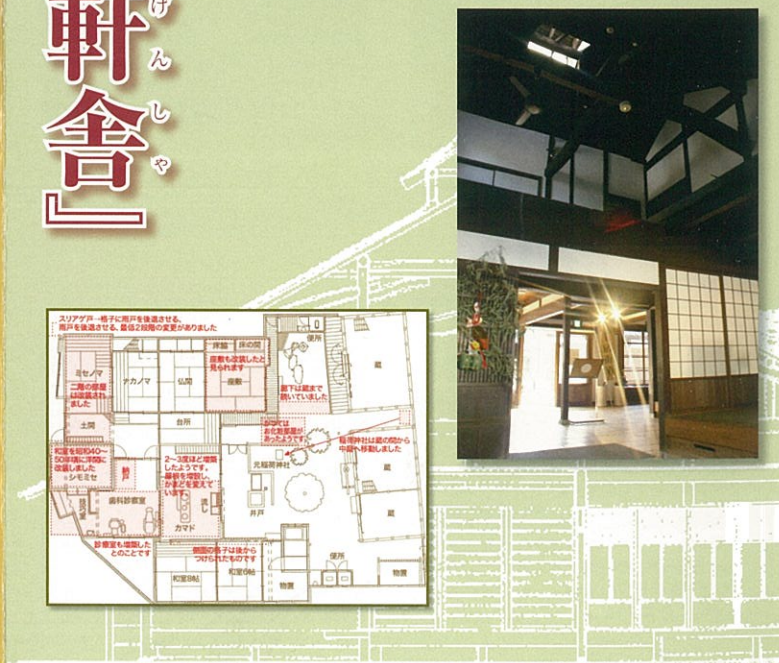
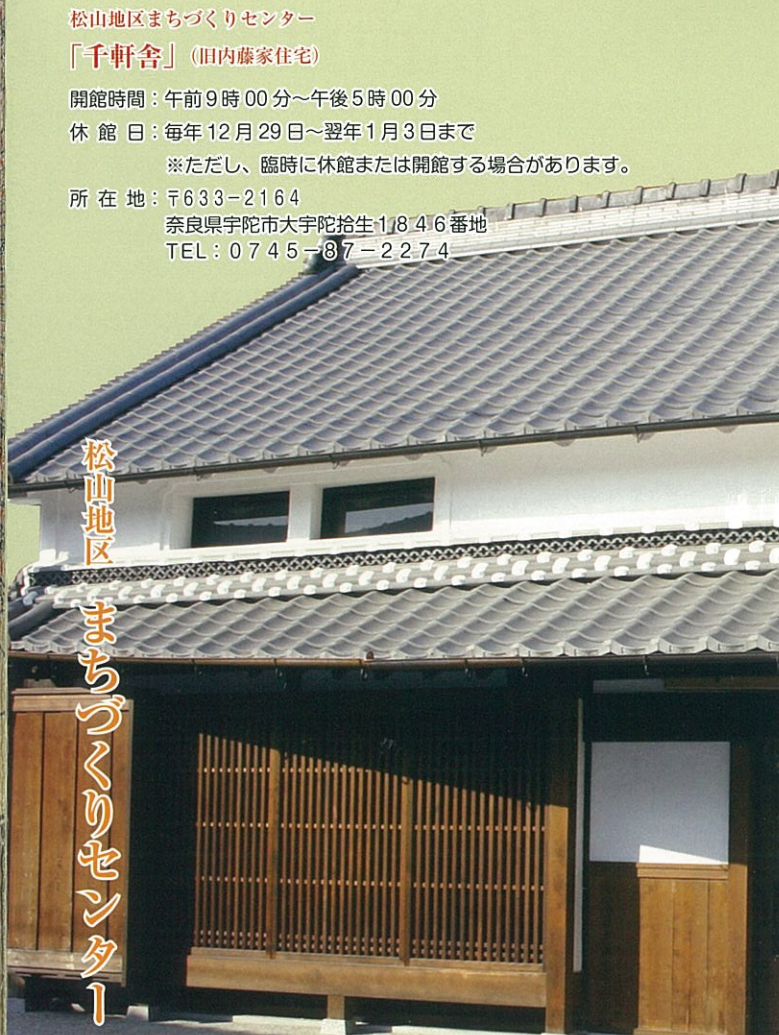


飛鳥時代から「阿騎野」と呼ばれ、宮廷の狩場だった大宇陀に、戦国時代「宇陀三将」と称された秋山氏が城を築き、その麓に栄えた城下町が宇陀松山地区の始まりとされています。以後、宇陀松山藩や天領時代など歴史のうねりの中で変遷を繰り返し、それぞれ時代の影響を受けながら、今日のまちなみを形成してきました。

# 『千軒舎』

松山地区まちづくりセンター

旧内藤家住宅



松山地区まちづくりセンター  
「千軒舎」(旧内藤家住宅)

開館時間：午前9時00分～午後5時00分  
休館日：毎年12月29日～翌年1月3日まで  
※ただし、臨時に休館または開館する場合があります。

所在地：〒633-2164  
奈良県宇陀市大宇陀拾生1丁目4番地  
TEL:0745-87-2274

# 宇陀市松山重要伝統的建造物保存地区

平成18年に重要伝統的建造物群保存地区に選定された、古いまちなみが今も残る町の名前です。

宇陀松山、聞き慣れない地名かもしれませんが、城下町から商家町へと発展した町並みに、今も生活感が残り、良好な景観が維持されている地区です。平成18年には「国の重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。保存地区に選定された歴史的町並みの散策はもちろん、家々の隙間からふと顔を出す自然の表情や、懐かしいものが並ぶ店の軒先など、時間の止まったようなゆったりとした空気も魅力です。

## 1 国史跡 松山西口関門（黒門）



城下町への出入口として今から400年前に建築したもので、昭和6年に国の史跡に指定された。西口関門から春日神社に続く道で、町の大手筋にあたった。町の人には「黒門」と呼ばれ親しまれている。

## 4 県指定文化財 山邊家住宅



江戸時代中期の建築である当家は、この地区の中で年代が判るものでは最も古い町家。かつては宇陀紙の問屋を家業としており、「山邊長助」を世襲、藩札の原版や宿札などが残っている。格子、スリアゲ戸の痕跡、5つの虫籠窓などが見られる。

## 8 大宇陀福祉会館



旧町役場の建物で、棟札から明治36年の建築であることが分かっている。入母屋造、平屋建、棧瓦葺、平入の建物で、正面中央に切妻造りの玄関が張り出している。奈良の近代建築の典型例である。

## 11 まちなみギャラリー-石景庵



地域コミュニティを育成し、地域の人達と来訪者との交流を促進する目的で、周囲の歴史的都市景観に配慮し、町内産の木材を使用して整備された。

## 2 国史跡 森野旧薬園



享保14年、森野實郭翁により開かれた森野旧薬園は、民間の薬草園としては日本最古のもので、大正15年に国の史跡に指定されている。園内には約250種類の薬草が栽培されているが、町並みが俯瞰できる数少ない場所でもある。

## 5 市指定文化財 歴史文化館「薬の館」



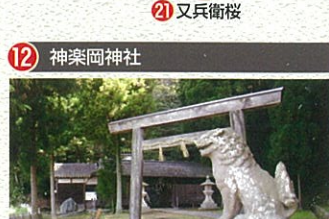
唐破風付きの「天寿丸」の看板が目目を引く、松山地区のシンボル。現在「薬の館」として市が管理し公開している。間口は8間半と広く、3列タイプの町家でザシキ列の屋根が一段高くなっている。江戸時代末期の建築とされる。

## 9 一本松跡地



旧町役場の建物で、棟札から明治36年の建築であることが分かっている。入母屋造、平屋建、棧瓦葺、平入の建物で、正面中央に切妻造りの玄関が張り出している。奈良の近代建築の典型例である。

## 21 又兵衛桜



万葉歌碑と丹波佐吉の拍犬がある。

## 3 県指定文化財 万法寺



## 6 県指定文化財 光明寺山門



## 7 春日神社



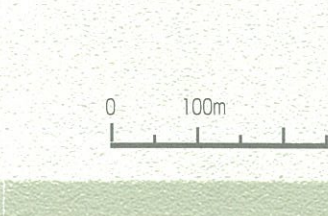
## 10 恵比須神社



## 12 神楽岡神社



## 14 大宇陀温泉 あきののゆ



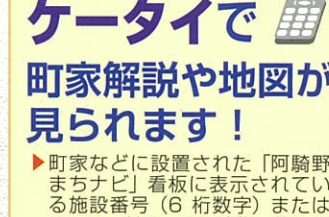
**松山地区の概要**  
 保存地区の名称 宇陀市松山伝統的建造物保存地区  
 保存地区の面積 約17.0ヘクタール  
 保存地区の区域 宇陀市大宇陀区、万六、出新、上新、中新、上、上中、上本、上茶、下本、下中、下出口、小出口の全地域及び下茶、春日、拾生の各1部  
 条例制定 平成16年12月17日  
 地区決定 平成17年12月12日  
 重要建造物群保存地区 平成18年7月5日  
 選定基準 (1) 伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なものの商家町  
 種別 商家町

## 13 道の駅「宇陀路大宇陀」



奈良交通バス停「大宇陀」も兼ねており、物産販売や休憩所、レストランや地元農産物の直売所、足湯、温泉スタンドも併設している。松山地区を散策するなら、ここに車をとめて歩くのが便利。レンタサイクル有。

## 14 大宇陀温泉あきののゆ



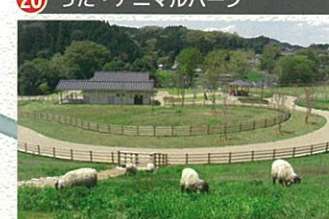
「やわらかなぬめり」のある良質の天然温泉が好評の日帰り温泉。美人の湯として親しまれている。温泉プールをはじめ、塩サウナ・電気風呂・薬風呂・露天風呂等の浴槽が楽しめる。温泉プールはファミリーに人気。

## 15 心の森総合福祉公園



約7万㎡の敷地には、ふれあい交流広場やグラウンドゴルフ場の他、周辺には大宇陀温泉あきののゆやふれあい交流ドームなど、子どもから高齢者まで多世代が憩える公園。

## 16 阿騎野・人麻呂公園



遺跡調査により、この地に古代の狩場（藪野）であった「阿騎野」の中心施設がおかれたことが判明。掘立柱建物跡などが発掘され、現在、遺跡公園として整備されている。公園内には柿本人麻呂像や、復元された掘立柱建物などがある。

## 17 かぎろひの丘万葉公園



万葉の歌人・柿本人麻呂が当地で詠んだ秀歌「むむがしの野にかぎろひの立つ見えてかへりみすれば月かたむきぬ」を刻んだ歌碑が立つ。毎年、旧暦11月17日の早朝、「かぎろひを観る会」が行われ、多数の参加者が集う。

## 18 阿紀神社



重仁天皇の御代、皇女倭姫命が天照大神を祀った宇多の秋（阿紀）宮が社の起こりといわれ、古くより大和朝廷と深い関係があったとされる。また、境内に残る能舞台では毎年6月に「あきの蛸能」が開催されている。

## 19 徳源寺



織田松山藩が歴代藩主の菩提所として建立した寺。京都北野の古寝殿を移築し本堂とした。境内の奥には今も蒲相信雄（信長の次男）や高長、長頼、信武の4代の五輪塔がある。

## 20 うだ・アニマルパーク



「遊ぶ。学ぶ。ふれあう。」を合言葉にした、人と動物がふれあえる公園。ポニーの乗馬体験、乳牛の乳搾り、やぎ・羊のえさやり体験の他、動物学習館ではさまざまな展示や各種畜産加工体験を開催している。

## 21 又兵衛桜（本郷の瀧桜）



樹齢300年とも言われる、高さ13m、幹周り3mを超える見事な枝垂れ桜。戦国武将「後藤又兵衛」の伝説と後藤家の屋敷跡にあることから「又兵衛桜」と呼ばれている。春には、全国から多くの花見客が訪れる。

## 22 天益寺



正和2年（1313）創建と伝えられている古刹。阿紀神社の元神宮寺。織田藩主3代目長頼が、眼病平癒祈願で参籠したと伝えられる。茅葺の屋根はよく映えしたが、平成11年に焼失。現在、寄付を募りながら再建をめぐしている。

**ケータイで町家解説や地図が見られます！**

▶ 町家などに設置された「阿騎野まちなみ」看板に表示されている施設番号（6桁数字）またはQRコードで、その建物・施設の解説に簡単アクセス。

▶ 町家・施設のリストからも選べます。

▶ GPS機能付きのケータイなら、現在地周辺の地図・施設リストに簡単アクセス。  
\*一部機種は除きます

<http://aknv.city.uda.nara.jp/>